地域医療センター地域医療連携通信

Kochi Health Sciences Center

にじ

NOV.2008 Vol.37

核医学検査室:SPECT/CT

特集①：先端医療機器（SPECT/CT）を導入しました！

特集②：高知医療センターでの新薬開発に向けての治験とは？

- 第19回高知医療センター職員による学会出張報告
  （第51回日本糖尿病学会年次学術集会 in 東京　代謝・内分泌科　菅野　尚）
- 地域医療連携病院のご紹介（医療法人弘仁会　岡林病院）
- 高知医療センターイベント情報

高知医療センターの基本理念

医療の主人公は患者さん

高知医療センターの基本目標

1．医療の質の向上
2．患者さんサービスの向上
3．病院経営の効率化

特集①

先端医療機器（SPECT/CT）を導入しました！

～　ガンマカメラ装置と CT 撮影装置を一体化（SPECT/CT）～

高知医療センター　医療技術局　特殊画像撮影科　科長　西川　智彦

高知医療センター核医学検査室では、去る９月下旬に機能情報を持つガンマカメラ（スペクト）と解剖学的情報を持つ診断用マルチスライス CT を融合し、同一寝台上で連続して撮影できる先端医療機器を導入しましたのでご紹介させていただきます。

この装置はドイツのシーメンス社製。名称はＳｙｍｂｉａ(シンビア)Ｔ6 で、全国でもまだ数台しか稼動していない新鋭機です。装置の外観を（図 1）に示します。

図１：装置の外観

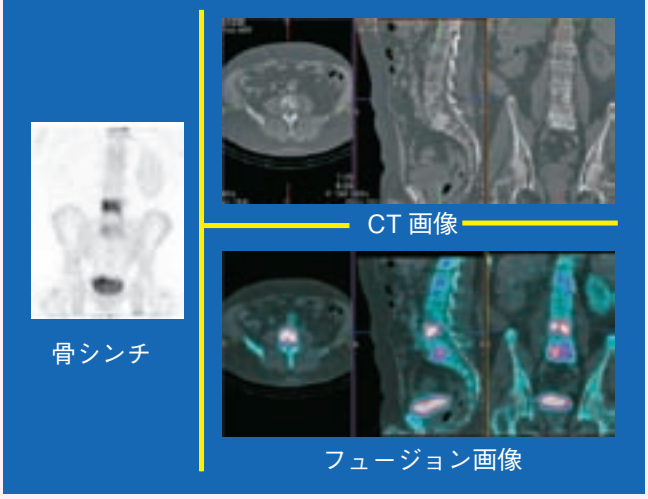
この装置の最大の特徴は、診断用マルチスライス CT を搭載しているため、核医学検査と CT 撮影が部屋を移動することなく両方の検査が一度で済むもので、患者さんの負担も軽減されます。また、通常のガンマカメラ(スペクト)でも脳血流や心筋血流、骨、腫瘍、様々な臓器機能を画像化することができるのですが、解剖学的情報が乏しいため、病変の正確な位置を特定することが難しく問題になっていました。そこで、CT や MRI 画像（各モダリティー画像）とのソフトウェアによる画像重ね合わせ（フュージョン）を行い、診断能を向上させるための技術が生まれてきたのですが、正確さや処理時間に問題があり苦慮していたところです。しかし、この装置の登場で２種類（RI・CT）の画像が一連の流れで撮影できるようになり、これらの画像の重ね合わせが瞬時に得られることによって、病変部位のより正確な位置の把握ができるようになり、また、画像診断精度が向上できるようになりました。

検査時間についてですが、検査によって異なりますが一回の検査時間は約 40 分で行えます。

次に症例を紹介します。

症例 1 は、腎臓がん術後の転移検索目的で骨シンチを行った症例です、骨シンチグラフィ Planar 像で第 4 腰椎に集積増加部位がみられます。このように脊椎に単発で集積増加がみられた場合、転移か変性などの良性疾患との区別が難しくなってきます。このような場合、SPECT/CT が有用になってきます。症例のごとくＣＴ画像で溶骨性変化がみられ、フュージョン画像で集積増加部位に一致して骨変化が確認でき、異常部位が正確に診断できるようになりました。

症例１：骨シンチグラフィ



症例２は、疲労骨折の SPECT/CT 画像です。スポーツに伴うトレーニングなどによる疲労骨折では、骨単純 X 線画像では描出できない症例が多く見られます。しかし、この装置で検査を行えば早期に病変部の異常を捉えることができるため、整形外科領域でも期待されています。

症例２：骨シンチグラフィ

以上で装置の紹介を終わりにいたします。

最後に当センターでの核医学検査一覧（次ページ）を参考にしていただき、もし対象となる患者さんがおられましたら、是非ご紹介ください。

高知医療センター　核医学検査室　主要核医学検査一覧表

脳シンチグラフィ

臨床適応：脳腫瘍および脳血管障害（髄膜腫、神経膠芽細胞腫、転移性腫瘍、脳動静脈奇形、硬膜下血腫、その他）

脳血流シンチグラフィ

臨床適応：脳梗塞（急性期、慢性期）、脳動脈閉塞･狭窄、TIA(一過性脳虚血発作)、RIND(可逆性虚血性神経学的脱落症状)、脳内出血、くも膜下出血、モヤモヤ病、脳動静脈奇形、脳外傷、脳腫瘍、認知症、てんかん、その他

脳･中枢性ベンゾジアゼピンシンチグラフィ

臨床適応：外科治療が考慮される部分てんかん

脳槽イメージング

臨床適応：各種脳脊髄液腔病変（水頭症、くも膜下腔ブロック、髄液漏、老人性認知症、その他）

甲状腺（静態）シンチグラフィ

臨床適応：甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、び漫性甲状腺腫、結節性甲状腺腫、甲状腺腫瘍、甲状腺機能低下症、甲状腺癌、甲状腺腺腫、甲状腺炎、その他）

甲状腺がん転移巣シンチグラフィ

臨床適応：甲状腺癌、甲状腺腫

副甲状腺シンチグラフィ

臨床適応：副甲状腺疾患（原発性副甲状腺機能亢進症、二次性副甲状腺機能亢進症、その他）

肺血流シンチグラフィ

臨床適応：各種肺疾患（肺癌、気管支拡張症、肺のう腫性疾患、慢性肺気腫、気管支炎、気管支喘息、肺結核、肺線維症、肋膜炎、その他）

心筋血流シンチグラフィ

臨床適応：陳旧性心筋梗塞、急性心筋梗塞、狭心症、梗塞に狭心症合併、心筋症、不整脈、その他（心臓弁膜症、心不全、心筋炎、無症候性心筋虚血、洞不全症候群、心室異形成、WPW 症候群など）

心筋脂肪酸代謝シンチグラフィ

臨床適応：虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症など）、心筋症、その他の心疾患（弁膜性心疾患、高血圧性心疾患、心筋炎など）

心大血管 RI アンギオシンチグラフィ

臨床適応：心疾患（虚血性心疾患、先天性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋症など）、大血管病変（大動脈瘤、大動脈閉塞・狭窄など）

心電図同期心プールシンチグラフィ

臨床適応：心疾患（虚血性心疾患、先天性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋症など）、大血管病変（大動脈瘤、大動脈閉塞・狭窄など）

肝受容体シンチグラフィ

臨床適応：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、アルコール性慢性肝炎、脂肪肝、閉塞性黄疸、肝腫瘍、その他の肝疾患

肝脾シンチグラフィ

臨床適応：各種肝脾疾患（肝腫瘍、肝硬変、肝炎、肝膿瘍、脾腫など）

肝・胆道シンチグラフィ

臨床適応：肝胆道系の形態および機能の診断（肝炎、肝硬変、肝癌、胆のう炎、胆石症、胆管癌、総胆管癌、胆道ジスキネジー、胆道拡張症、胆道閉鎖症など）、高度肝機能障害例における病変部の把握、乳児肝炎と先天性肝胆道閉鎖症の鑑別、完全閉塞か不完全閉塞かの鑑別、PTCD 後・内瘻術後のドレナージ効果の判定

腎（静態）シンチグラフィ

臨床適応：腎腫瘍、慢性腎炎、急性腎炎、腎奇形、腎盂腎炎、その他

腎（動態）シンチグラフィ

臨床適応：糸球体腎炎、尿路通過障害（水腎症を含む）、腎・尿路結石、糖尿病性腎症、腎血管性高血圧症、腎腫瘤性病変（嚢胞を含む）、高血圧性腎症、ネフローゼ症候群、腎不全、移植腎、その他の腎・尿路疾患

副腎（皮質）シンチグラフィ

臨床適応：副腎疾患部位の局在診断

副腎（髄質）シンチグラフィ

臨床適応：褐色細胞腫、神経芽細胞腫または甲状腺髄様癌の診断

骨シンチグラフィ

臨床適応：転移性骨腫瘍（原発；肺癌、乳癌、前立腺癌、胃癌、子宮癌、膀胱癌など）、原発性骨腫瘍（骨肉腫、骨髄腫など）、その他の骨疾患（骨折、関節炎、骨髄炎など）

造血髄シンチグラフィ

臨床適応：赤血球系疾患（鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、赤血球増多症）、白血球系疾患（急性白血病、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫）、放射線治療例の骨髄機能検査

腫瘍シンチグラフィ

臨床適応：脳腫瘍、甲状腺癌、甲状腺腫、甲状腺未分化癌、肺癌、原発性肝癌、骨腫瘍、軟部腫瘍、縦隔腫瘍、ホジキン病、非ホジキンリンパ腫、悪性黒色腫、その他

炎症シンチグラフィ

臨床適応：骨、関節、筋肉部（骨髄炎、関節炎、股関節症、滑膜炎など）、胸部（肺線維症、塵肺、放射性肺炎、薬剤性肺臓炎、び慢性汎細気管支炎、肺膿瘍、サルコイドーシスなど）、腹部（肝膿瘍、脾膿瘍、横隔膜下腫瘍、腎膿瘍、胆のう炎、腎盂腎炎など）

唾液腺シンチグラフィ

臨床適応：唾液腺疾患（シェーグレン症候群、唾液腺腫瘍など）

メッケル憩室およびその他異所性胃粘膜シンチグラフィ

臨床適応：異所性胃粘膜疾患（メッケル憩室、その他）

消化管出血シンチグラフィ

臨床適応：末梢循環障害（動脈および静脈閉塞・狭窄・精索静脈瘤、その他）

特集②

高知医療センターでの新薬開発に向けての治験とは？

文責：臨床試験管理センター　センター長　深田順一

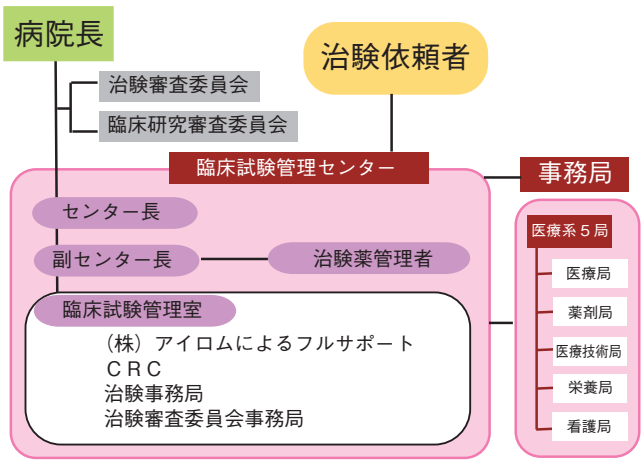
高知医療センターでは、当院の果たすべき役割の一つに新薬開発への協力を挙げ、これに積極的に取り組んでいます。そしてこの、いわゆる『治験』の成果を挙げるためには、ご協力いただく患者さんの存在が必須です。

そこで今回は当院での治験について、その実情を少し詳しくご紹介します。また最後に治験の１例を掲載いたしますので、治験に参加していただけそうな患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

【組織紹介】

高知医療センターでは治験に取り組むため、臨床試験管理センターを設置しています。当センターの組織は、図１のように CRC（治験コーディネータ）、治験事務局業務、治験審査委員会事務局業務を一括して、SMO（治験実施施設支援機関）である株式会社アイロムに委託し、協働体制で治験業務の運営にあたっています。また、治験実施・継続の審議および臨床試験管理センターを監督するために、弁護士・大学教授の２名の外部委員を含む、15 名の委員からなる治験審査委員会を設置しています。

図１：臨床試験管理センターの組織図



臨床試験管理センタースタッフ紹介

【治験に参加する患者さんの Q&A】

Q：参加すると治療面でどのようなメリットがあるの？

A：これまでになかった新薬を試用するので、その効能・効果が第一のメリットです。しかし、なかには治療 効果を検証するためのプラセボ（偽薬）にあたる場合もあることは承知しておく必要があります。加えて、現在の治験は、厳密なデータを取るための非常にしっかりしたプロトコルで検査（費用の患者負担なし）を行いますので、治験期間はむしろきっちりした治療がなされる印象です。

Q：経済的なメリットは？

A：治験薬の投与期間中の患者さんの診療費はかなり安くなることが期待されます。なぜなら、投与期間中は保険外併用療養費制度の適用となり、検査・画像診断および同種・同効薬に関しては多くの場合、開発を行っている製薬会社の負担となるからです。

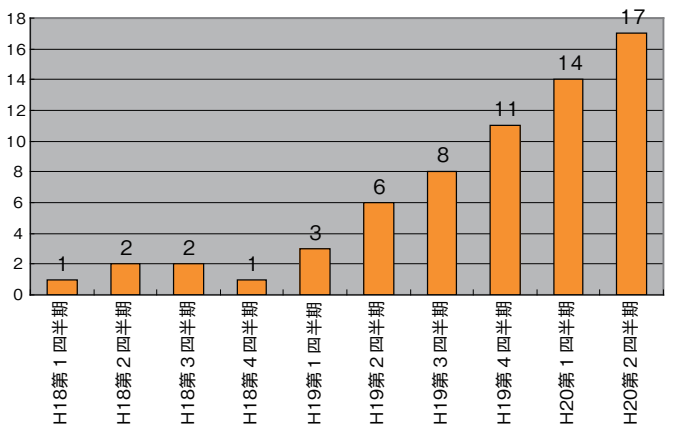
Q：治験に参加すると通院回数が増えるのでは？

A：プロトコルに基づき検査を実施するため、通院回数が若干増えることがあります。また、その検査のために院内での拘束時間が長くなることもあります。そこで患者さんの負担軽減のため、当院では治験のための通院ではその度毎に、入院については１回あたり通常 7,000 円を負担軽減費として患者さんにお支払いしています。

Q：副作用が起きた場合の治療費はどうなるの？

A：治験に際して予想される副作用や、過去の治験結果等もあらかじめ文書で患者さんに詳しくご説明します。その上で、もし副作用が生じた場合は、原則として治験によって生じる全ての副作用の治療費は製薬会社が補償します。補償の内容や範囲に関しても治験参加前に文書でご説明しています。

当院の治験取扱件数の推移



【既に募集を終了した治験の概要】

薬剤	対象	対象疾患（相）	状況	特記事項
A注射剤	入院	複雑性尿路感染症（第Ⅱ相）	終了	
B注射剤	入院	複雑性尿路感染症（第Ⅲ相）	終了	
C貼付剤	入院	オピオイド未使用患者における癌性疼痛（第Ⅲ相）	終了	
D貼付剤	入院	オピオイド未使用患者における癌性疼痛（第Ⅲ相）	終了	
E貼付剤	入院	オピオイド未使用患者における癌性疼痛（第Ⅱ/Ⅲ相）	データ固定中	
F注射剤	入院	市中肺炎（第Ⅲ相）	データ固定中	
G注射剤	入院	脛骨骨幹部骨折（第Ⅱ相）	追跡観察中	
H経口剤	外来	糖尿病神経障害（第Ⅱ相）	開発中止	
I経口剤	外来	NSAIDs長期投与中患者（上部消化管潰瘍予防（第Ⅲ相）	投薬中	

【現在募集中の治験の概要】

薬剤	対象	対象疾患（相）	状況	特記事項
J注射剤	入院	重症セプシス（第Ⅲ相）	募集中	急性膵炎、敗血症性ショック※
K注射剤	入院	重症セプシス（第Ⅲ相）	募集中	
L経口剤	外来	肝細胞癌（TAEとの併用）（第Ⅱ相）	募集中	
M経口剤	外来	結腸直腸癌（1次治療）（第Ⅱ相）	募集中	嘔吐、食欲不振、白血球減少、悪心※
N併用療法	入院	結腸直腸癌（1次治療）（第Ⅱ相）	募集中	
O注射剤	入院	胃癌（2次治療）（第Ⅱ相）	募集中	
P経口剤	入院	胃癌（2次治療）（第Ⅲ相）	募集中	
Q注射剤	入院	脛骨骨幹部骨折（第Ⅱ相）	募集中	
R注射剤	入院	腰椎椎間板ヘルニア（第Ⅱ相）	募集中	

※当院で発生した重篤な副作用・・・死亡や入院に至った事象で、因果関係を否定できない事象。各１例に発生。

臨床試験への登録のお願い～ 手術前の腰椎椎間板ヘルニア ～

①腰椎椎間板ヘルニアの治験

腰椎椎間板ヘルニア患者さんを対象とした治験を実施中です。登録は平成21年３月末まで。下記②の基準に当てはまる患者さんがおられましたら、是非ご紹介ください。

②主な適格基準

１）MRI で L4/L5 または L5/S1 のいずれかにヘルニアが一つ認められること
２）年齢が 20 歳以上 70 歳以下であること
３）保存療法で改善が認められないこと
４）過去に腰椎手術を受けたことがないこと
５）腰椎椎間板ヘルニア以外の腰椎疾患を有しないこと

１）～５）の全てを満たす患者さんが対象です。なお、若干の追加条件もありますので、お心当たりの方は下記まで、まずお問い合わせください。

③問い合わせ先

高知医療センター　臨床試験管理室
TEL:088-837-3050（直通）
E-mail:rinsyo@khsc.or.jp

④治験の流れ

１）候補の患者さんに診断確定のための検査が必要な場合、この分の医療費は通常の保険診療となります。
２）医師･スタッフが説明と同意取得をします。
３）追加の検査があります。
４）治験薬の注射を受けていただきます。
５）薬剤の効果確認のため、定期的に来院していただきます。

※同意取得後の治験のための検査・投薬代は、原則として製薬会社が負担します（左記以外の患者さん負担分（診察料や治験薬以外の投薬料）は、通常の保険診療です）、また、同意取得後の治験のための来院についても、毎回、交通費相当の一定額が病院から支払われます。

【責任医師】
整形外科　時岡　孝光
【実施診療科】
整形外科（時岡）、ペインクリニック科（青野）
TEL:088-837-3000（代表）

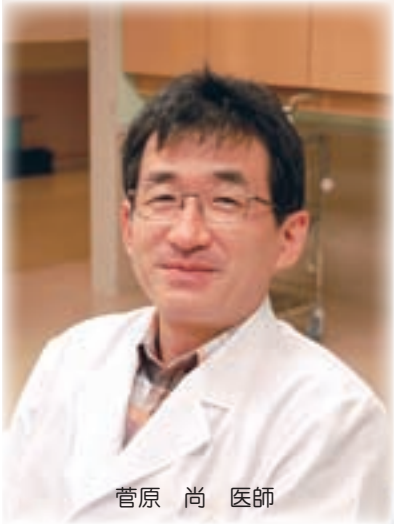
第19回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加しています。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第51回日本糖尿病学会 年次学術集会 in 東京

代謝・内分泌科　診療科長　菅野尚

（会場前）



菅原　尚　医師

第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会が 2008 年 5 月 22 日から 24 日まで東京大学の門脇孝教授のもとで東京国際フォーラムで開催されました。

印象に残る話では iPS 細胞の展望と課題というタイトルで京都大学 iPS 細胞研究センターの山中伸弥先生の特別講演がありました。この時は東京国際フォーラムのホールＡが満席の状態でした。胚性幹細胞(ES)は、すべての細胞へと分化できる多能性を維持したまま無限に増殖できるため、ヒト ES 細胞は脊髄損傷、心筋梗塞、1 型糖尿病、筋ジストロフィーなどの疾患に対する細胞移植治療の資源として期待されていますが、倫理的課題や免疫拒絶などの問題があります。山中先生のグループは世界に先駆けて体細胞であるヒト成人皮膚由来の線維芽細胞から ES 細胞に類似した多能性をもつ iPS（induced pluripotent stem）細胞を作製されました。山中先生は神戸大学を卒業され元々整形外科医としてスタートされたそうですが、どのような経緯で現在の道を歩まれるようになったか、また iPS 細胞を得るまでの過程を素人にもわかりやすく、ユーモアを交えての講演で興味深く聞くことができました。お奨めの講演だと思います。

新しい糖尿病治療の話題ではインクレチン治療の将来展望というシンポジウムがありました。インクレチンとは食事摂取に伴い消化管から分泌され、膵β細胞からのインスリン分泌を促進する消化管ホルモンの総称ですが SU 剤とは異なる機序でインスリン分泌を促進すること、ブドウ糖濃度依存性のインスリン分泌であるため低血糖のリスクが少なく食後の高血糖を是正できること、体重減少も期待されることから現在の糖尿病治療の問題点に応えるような薬剤です。インクレチンには GIP と GLP-1 があり GLP-1　analog とインクレチンの分解酵素である DPPⅣ阻害薬が欧米では既に用いられています。日本人は欧米人と比べインスリン分泌能が弱いためその効果が期待されています。1～2 年くらいの間に日本でも発売の予定です。

このほか千葉県東金病院の平井愛山先生のランチョンセミナー「こうしたらできる糖尿病医療連携」がありました。医師不足を契機として住民の方の理解を得ながら医療連携を進め、その過程をわかりやすく話され、高知での今後の糖尿病医療連携を考えるうえで有意義な講演でした。

地域医療連携病院のご紹介 Vol.36

医療法人弘仁会　岡林病院

〒780-8040　高知市神田 598-1 電話：088(832)8821
URL：http://www.kochikc.co.jp/okabayashihp/

（診療科）
内科、外科、リハビリテーション科、循環器内科、放射線科、皮膚科、消化器内科、整形外科、泌尿器科、消化器外科、脳神経外科、小児科、呼吸器内科、アレルギー科、肛門外科、神経内科、リウマチ科、形成外科、老年内科、美容外科
（関連施設）
在宅ケアセンターかもだ、通所リハビリテーションかもだ、ヘルパーステーションかもだ、グループホームかもだの杜、高知市西部地域高齢者支援センターかもだ出張所

左より、小田総師長、岡林旬子副院長、在宅部の近藤さん

医療法人弘仁会岡林病院は、昭和 54 年 4 月に開院しました。高知市神田地区を中心に、総合的な診療・治療に加え、病気の予防までを総合的に行っています。病床数は一般病床 45 床、療養病床 46 床となっています。また、形成外科、美容外科そして老年内科が新設されています。地域の皆さん一人ひとりの異なるニーズに応えるべく、在宅療養生活をサポートする「在宅ケアセンターかもだ」、「通所リハビリテーションかもだ」、「ヘルパーステーションかもだ」、グループホーム「かもだの杜」（定員 18 名、全室個室）、そして在宅サービスや介護に関する相談に対応している「高知市西部地域高齢者支援センターかもだ出張所」を併設しています。今回は、岡林旬子副院長、小田総師長、在宅部の近藤さんにお話を伺いました。

Q：まず、高知医療センターとの連携についてご意見をお聞かせください。
A：機能分担という時代ですので、地域の病院で診られるものは診て、高知医療センターでできることはお願いしています。当院には現在ＭＳＷがおりませんので、実際の患者さんの受入れは、小田総師長が担当しており、岡林副院長と小田総師長が一緒にベッドコントロールをしています。当院から患者さんの受入れをお願いする際は、高知医療センターの地域医療連携室を通して、患者さんの状況や情報を併せてお願いしています。ただ、最近はよく医師が変わられているようなので、ご紹介する際に希望する医師が退職されていて誰に紹介していいか困る時もあります。また、高知医療センターの方から、この地区にお住まいの方で当院に転院したいというご希望の方がいらっしゃいましたら、積極的に医師と相談をしてお受けできるように努力しています。また、地域以外の方、東は室戸、西は土佐清水、梼原といった地区の患者さんもいらっしゃいます。

Q：医療療養病床についてですが、医療区分２、３でないと難しいですか？
A：医療区分１の方の受入れは厳しいです。一般（障害者施設）病床も認知症の方や脳卒中後遺症の方は受入れができにくくなってきましたので、これからの対応をどうするかが課題になっています。病床稼働率は 90～100％となっています。

Q：リハビリについてお聞かせください。
A：PT（理学療法士）が 4 名、OT（作業療法士）が 1 名です。リハビリ目的の患者さんの受入れも適応があれば可能ですが、継続していくのが制度的に難しく苦労しています。特に高齢者の方はリハビリをやめると、すぐに寝たきりになってしまいますので、継続してリハビリができるように考えていきたいと思います。
　在宅部門は事業所が 5 つありまして、そのうちの一つは高知市から委託を受けた「高知市西部地域高齢者支援センターかもだ出張所」を中心にして、「在宅ケアセンターかもだ」、「通所リハビリテーションかもだ」、「ヘルパーステーションかもだ」、そして昨年「グループホームかもだの杜」を開設しました。

Q：特に力を入れていることはありますか？
A：地域との連携から言いますと、地域の方々の「いきいき百歳体操」のために場所を提供したり、地区運動会に参加したりして地域との交流を深めています。ラストに医療面では、昨年から形成外科、今年より老年内科、美容外科を新設し力を入れています。また、特定健診にも力を入れています。予防的なことや保健指導、栄養指導など、いろいろなことを複合的にできる病院として機能充実を図っています。

お忙しいなか取材にご協力いただきありがとうございました。

高知医療センター　イベント情報

日	曜	11 月～
1	土	**平成２０年度第２回高知医療センター地域がん診療連携拠点病院公開講座** 内容　「**最近の膵がんの治療**」　講師　高知医療センター・消化器外科医長　志摩泰生氏 「**血液のがんってどんながん？**」　講師　高知医療センター・血液・輸血科科長　上村由樹氏 「**乳がんを恐れないために乳がんを知ろう**」　講師　高知医療センター・一般外科・乳腺内分泌外科科長兼医療局次長　岡林孝弘氏 場所　四万十市社会福祉センター　四万十市右山五月町８－３　時間　14：00 ～ 16：30 お問い合わせ：高知医療センター事務局業務推進課
2	日	**高知母乳の会総会・講演会** 内容　「**母乳育児と歯の話**」　講師　青葉こどもと親の歯科医院　青葉達夫　院長 場所　高知医療センター２階　くろしおホール　時間　10:00 ～ 入場料：高知母乳の会会員無料、非会員 1,000 円　主催：高知母乳の会 お問い合わせ：高知母乳の会事務局　田村こどもクリニック内　高知市篠原 1459 ー 1　電話：088(863)0723
9	日	**第８回赤ちゃん同窓会** 場所　高知医療センター２階　くろしおホール、１階　研修室　時間　11：30 ～ 16：30 お問い合わせ：総合周産期母子医療センター　センター長　吉川清志／すこやかフロア　看護部長　長幹子
11	火	**第８回高知医療センター外科グループ手術症例検討会** 内容　「**症例発表６題（食道がん、胃がん、直腸がん、肝がん、乳がん、そして副甲状腺腫瘍）**」 場所　高知医療センター２階　くろしおホール　時間　19:00 ～ 21:00 お問い合わせ：消化器外科・地域医療センター　センター長　西岡豊／地域医療連携室
15	土	**第６回 Kochi StroKe フォーラム学術講演会** 内容　「**幡多地域脳梗塞地域連携パスとその取組み**」　講師　幡多けんみん病院　脳神経外科　医長　西村裕之氏 場所　高知医療センター２階　くろしおホール　時間　15:00 ～ 17:30（予定） お問い合わせ：高知医療センター　地域医療連携室 088(837)6700　看護部長　大西信子 Kochi StroKe フォーラム事務局・連絡先：近森リハビリテーション病院　〒780-0056 高知市北本町 1-2-6 電話：088(822)5231　FAX：088(822)2075
17	月	**第３３回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会** 場所　高知医療センター２階　くろしおホール　時間　17:30 ～ お問い合わせ：高知医療センター　救命救急センター
22	土	**第３回高知医療センター地域医療研修会** 内容　「**地域連携の視点でみた歯科診療～お口のよもやま話～**」 講師　高知医療センター　歯科口腔外科　診療部長　立本行宏氏 場所　高知医療センター２階　くろしおホール　時間　15:00 ～ 17:30（予定） お問い合わせ：高知医療センター　地域医療連携室　看護部長　大西信子
23	日	**三里まつり糖尿病フェア** 内容　「**めざそう健康　見直そう生活習慣**」～パネル展示、計測（身長、体重、腹囲、BMI、血糖、血圧）、医療相談（医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士による）、フットケア、パンフレット・アンケートの配布 場所　高知女子大学池キャンパス　三里まつり会場　時間　10:00 ～ 15:00 お問い合わせ：高知医療センター　看護部長　古味なほ子

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。背景に色がついている講座は是非、地域の医療機関の皆さまにご参加いただきたいものとなっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

日本医療機能評価機構のサーベイヤーがとある若い病院を訪れた。地域の基幹病院として求められる機能を備え、高い技術とサービスを提供しようという強い使命を担って構築され、機能評価も想定した構成と体制。さてその評価は？

医療関係者間では、受審の体験談として苦労話を聞く機会も少なくない。医療現場を熟知しない事務職員あるいはボランティアまでも受審に関わる。その過程で誤った噂や情報に振り回されることもあると聞く。病院の使命が理解できていれば、病院のあるべき姿や運用則を再認識し、不足している知識や体制を補うよい機会とも言われる。ポジティブに捉えると結果はどうであれ、受審過程で職員がどれだけ主体的な意識をもつかが、その後の患者さんからのホントの評価に結びつくことになるだろう。（まごころ窓口　中村）

平成20年11月1日発行
にじ　11月号（第37号）
責任者：堀見　忠司
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印　刷：共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555　高知県高知市池2125-1
ＴＥＬ：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : http://www2.khsc.or.jp/